

# 中小企業海外展開調査支援事業成果事例

【事業名】ベトナムでの生産拠点設置に関する工場建設用地選定調査及びマーケティング調査

## 明興産業株式会社

### 会社概要

- 所在地 神戸市長田区苅藻通 1-3-1
- 代表者 代表取締役社長 下土井 健城
- 業種 プラスチック成型・機器組立
- 業務概要 射出成型及金型製作・シルク印刷等、電子・電機機器・医療部品の製造、電機・電鉄・車輛用機器組立
- 資本金 5,000 万円
- 売上高 20 億円
- 従業員数 109 人
- URL <http://www.meikos.co.jp/>
- 海外展開の状況及び計画 香港事務所(1994 年)、東莞工場(中国) (1994 年)、ベトナム工場 (2015 年)



本社正面

### ■事業概要

1956年にプラスチック製品の製造工場として神戸で創業し、取引先のニーズに合わせてその業容を拡大していきました。76年に氷上工場（丹波市）を、その4年後に丸亀工場を建設。いずれも電子部品の組み立て業務に参入するための投資でした。丸亀工場ではその後、炭素繊維の加工・成形にも着手しました。一方で撤退を決断したケースもありました。83年に大手メーカーの新工場設立に合わせて操業を始めた埼玉工場は、取引先の倒産とともに98年に撤退。同じ98年には、西神工業団地にあった工場を神戸工場に統合。その後も時々の経済環境やニーズに合わせてフレキシブルに対応しました。阪神・淡路大震災では本社工場、神戸工場が被災しましたが、10月には操業を再開しました。当社は、各種部品の金型製作から成形品の量産、ユニットの組み立てまでを一貫して手掛け、自動車や電車の車両、電子・電気機器など、さまざまなものに使われております。受注品の製造で培った技術力を活かし、自社製品の開発にも積極的に取り組んでおります。レスキューロボットやテロ対策ロボットがその例です。また、2006年には、10分の1サイズの動く「鉄人28号」を製造しました。限定100台の鉄人28号ロボットは高価格ながらたちまち完売となりました。生みの親の漫画家・横山光輝氏と当社会長が同級生というご縁で実現したプロジェクトです。2008年には公益財団法人ひょうご産業活性化センターの「成長期待企業」にも選定されました。当社のような規模の企業は、経済の影響を受けやすいです。だからこそ状況に応じて即断しなければなりません。海外進出も新規事業の開発も決断力が問われます。収益面では厳しいケースも少なくありませんが、チャレンジしないと人材が育たず、事業が硬直化しかねません。自社の体力を付ける意味でも新規事業に積極的に取り組んでおります。

### ■海外展開の動機と狙い

海外展開は、得意先からの要望もあって、1994年、中国・広東省にはじめての海外生産拠点を設置しました。延べ床面積5,600㎡、従業員180名で熱可塑性射出成形や熱硬化性直圧成形を行ってきました。その後、中国工場では人件費などコストが上昇してきたこともあり、中国工場を補完し、災害時にも取引先のメーカーに安定的に製品を供給できるように、製造工程の一部を他国へ移管する検討を始めました。丁度、取引先の事務機器メーカーがベトナム

ムに進出したこともあり、ローラーなどの機構部品のプラスチック成型の一部をベトナムへ移管することにしました。ベトナムに新規に拠点を設置すれば、2015年末に発足するアセアン経済共同体による関税撤廃も見据え、タイやマレーシアなどへの輸出へとビジネスが広がっていくのではと期待したからです。中国では20年以上事業を展開してきましたが、その他の国については情報が全くありませんでした。ビジョンの策定から始め、調査人員の編成から情報の分析そして全体計画の策定等をして、ベトナム展開を成功させるためにどのように進めていくべきかについて考えていたところ、（公財）ひょうご産業活性化センター・ひょうご海外ビジネスセンターで実施している中小企業海外展開調査支援事業があることを知り、現地でのマーケティング調査や工場建設現場選定調査を行うべくこの事業の申請を行い、採択されました。

## ■ひょうご海外ビジネスセンターの支援を受け、計画実現

取引先の事務機器メーカーが進出しているベトナム北部のハイフォン市のチャンズエ工業団地を進出先第一候補地と考え、同工業団地のインフラ調査、雇用状況調査の他、現地に進出している日系事務機器メーカーを訪問し、需要調査を行うこととし、2014年9月に現地に赴きました。調査にあたっては、現地に進出して20年になるウイトコ株式会社の中田晴久社長に大変お世話になり、上記調査に併せて建設会社との打ち合わせもできました。

この調査の結果、現地に進出してビジネスを展開することが可能と判断、工場を建設することに決定いたしました。2015年の稼働を目指し、進出にかかる手続きや雇用確保のためのリクルート活動も開始いたしました。2015年12月に、5,000㎡の敷地（定期借地権）に鉄骨2階建て延べ3,000㎡の建屋が完成し、プラスチック加工用の射出成型機を10台配備、社員10人でスタート

いたしました。その後現地日系事務機器メーカー向けの製品を供給しながら、2016年末をめどに社員100、成形機30台の規模に広げたいと思っております。今回の進出は、失敗すれば経営にも影響が出ないとも限らない重要な事業でしたので、ひょうご海外ビジネスセンターの中小企業海外展開調査でより綿密な調査を行って失敗のリスクを低減することができ、大変役に立ったと感謝しております。



工場建設地

## ■今後の見通し

最初は現地に進出している日系企業との取引が中心になりますが、将来的には現地企業との取引も視野に入れて活動したいと考えています。また、ベトナムを拠点にタイやマレーシアのマーケットにもアプローチしていきたいと思っております。

## ■海外展開促進員より （長尾 康）

本案件は、申請当初より実現性が高く内容的にも評価されるものでした。当センターの支援以外の部分でももちろんご苦労は多かったと思われませんが、今回は、海外拠点設立に関して輝かしい成果事例となりました。中小企業ではなかなか踏み込めない海外での拠点設立成功事例は、今後とも役に立つ例として活用していきたいと思っておりますし、明興産業の今後の海外展開について引き続き支援していきたいと思っております。



ベトナム工場全景